

森林塾通信

発行
KOA 森林塾
(事務局)
0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

第2回森林塾報告

テーマ「樹木分類」

『顔を覚え、名前を覚え、友達になる』

ニージーランドの山岳ガイドをしていた『じよん』の藤原の軽妙な検索入門は如何だったでしょうか。樹木



経ヶ岳をバックにツツジの咲きかけた鳩吹公園で検索入門

の名前の覚え方には色々な方法がありますが、やはり「キー」を辿る検索は最もオーソドックスな近道ではないかと思えます。図鑑さえ持っていれば、師匠と一緒になくても自分一人で出来ま

す。ただ図鑑は「はい正解です」と答えてくれませんか。でも気が短くて即座に名前を知りたいという人には、葉っぱをスキナーにかけるとあっという間に検索をして名前を覚えてくれるパ



オンドリペア奥本・山口さんは2年目

ソコンソフトくらい有っても良さそうですね。(あまり売れそうもないかな?) 樹木は身近なもの二百種くらいを覚えると、その辺りのめぼしいもの大方ということになりますので、それ程遠い道にはありません。これが野草やきのこになると大幅に数が増えま

すし、昆虫になるとまた桁違いになります。やはり顔を覚えて名前を覚えるのが友達になる第一歩でしょう。そしてその特徴や個性を知ると、友達になりたいなあとか「親しいお付き合いはあまりしたくないなあ」という好き嫌いの感情がでてきますが、いずれも「隅に置けない奴らであることがわかってくると思います。

以前は(三十年前なのか)五十年前なのか)子供は山や川で遊び、大人はそこで働き、利用し収穫をするなど、私たちは森や木たちともう少し近い付き合いをしていたはず。だんだんと疎遠になつてきてしまいました。さて少し余裕を作つてまたこちらから少し近づいてお友達になつてもらい、一緒に遊んでもらう努力をしてみるのも良いかもしれせん。



検索でナナカマドにいきつく



ちょっと開きすぎだがコシアブラをゲット

今回の内容

第2回5月13日(土)

樹木分類

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。ナタ、ノコを注文した人達に新品が手渡されました。真田紐の結び方は次回に先生方から



村谷さん、寺田さん夫妻を中心にEグループ考え中



最優秀グループEにほだ木を配る



西小学校で島崎先生を中心に答え合わせ。
「子供の頃はこのヤマツツジの花を食べたもんだ。」

の指導があります。先生方のあいさつのと、公園で5グループに分かれて検索のやり方、図鑑の使い方の説明を受ける。複葉の小葉をちぎるとは反則臭いよ藤原さん。

9時30分 車に分乗して西小学校へ。

10時 検索スタート。やはり二年目以降の方に一日の長有り。11種類の樹木を各グループ検索しました。早く終わった順にグランドの端で昼食。E斑が一番乗りでした。

1時 保科先生、島崎先生の二手に分かれて答え合わせ。サロメチールのにおいのするミズメが少し難しかったようです。キハダも少し悩んだかな。全問正解が3グループ有り

2時 小屋に戻り、グループに分かれてきのこほだ場を見回ったり、山菜を採ったり(やや開きすぎでしたがコシアブラが採れました)樹木分類の続きをしたりで**3時30分** 集合、まとめ、あいさつ4時解散。

ましたがじゃんけんの結果E斑が賞品のシイタケほだ木を獲得しました。



参加者/有賀さん、池田さん、池野谷さん、稲垣さん、稲垣さん、梅木さん、太田さん、岡田さん、小沢さん、片岡さん夫妻、河尻さん、神田さん、坂田さん、坂本さん、佐藤さん、塩田さん、鈴木さん、須藤さん、田中さん、長島さん、中村さん、芳賀さん、松下さん、皆川さん、森さん、山口さん、一瀬さん、小川さん、奥本さん、小澤さん、金子さん、河原さん、佐野さん、高草木さん、中村さん、根市さん、藤村さん、藤本さん、村谷さん、山口さん、武部さん、大竹さん、荻野さん、寺田さん夫妻、大野さん、竹内さん、講師/保科先生、島崎先生、スタッフ/川島、後藤、佐藤、中村、野口、藤原、宮崎、坪木、田中、早川 取材/長野

朝日放送、酒井さん他、環境パートナーシップオフィス浜本さん

次回以降の予定

第3回 5月27日(土)
伐木造材、道具の使い方等

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。手のこ、チェーンソーの使い方、手入れの方法、木の倒し方などの練習をします。横山の山林を予定しています。なた、のこ、ヘルメット、チェーンソーのある方はお持ち下さい。(ただしチェーンソーの始動はインストラクターの指示の下で)

第4回 6月10日(土)
測樹等

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。森林調査の一環で、ある林分(ひとかたまりの山林)にどんな種類のどんな大きさの木がどれくらいあるのかをサンブル調査、または毎木調査により推定する方を身につけます。それに基づき林木評価を行ったり、施業診断をしたりします。筆記用具、電卓

第5回 6月24日(土)
測量と製図

今回の復習&豆知識

「匂いを楽しむ」

伊那市界隈の山も春先の黄色い花や桜はほぼ終わりましたが、ウワミズザクラが今満開です。葉が先にでて後で咲くタイプの桜で西小学校にもありました。穂状の集合花になってるので一見桜にはみえませんが、近づくとその強い香りはまさに桜です。くどめの香りで好き嫌いは分かれると思いますが、若い果実の焼酎づけは季節はずれに桜



ウワミズザクラの穂状花

を思い出させます。ズミヤノイバラなど、バラ科の樹木の花は目立たないものほど香りでアツピールしているようでもあります。

しばらくすると、ニセアカシア(ハリエンジュ)が満開になります。遠くからでもそれとわかる甘酸っぱい香りは悪いものではありません。ミツバチは美味しい蜂蜜を作ってくれますし、素早く天ぷらにすれば香りと味を同時に楽しむことが出来ます。あくまでも素早く、しかも揚げたてを楽しんで下さい。

やや遅れて咲くのがホオノキの花。ご覧になったことがあるでしょうか。恐ろしく立派で、恐ろしく強烈な匂いです。桜好きの人にはあまり受けられないかもしれません。一輪摘んで車の中に入れてと10分で頭がくらくらしてきますのでこれはやはり遠くから香りと美しさを楽しむべきでしょう。

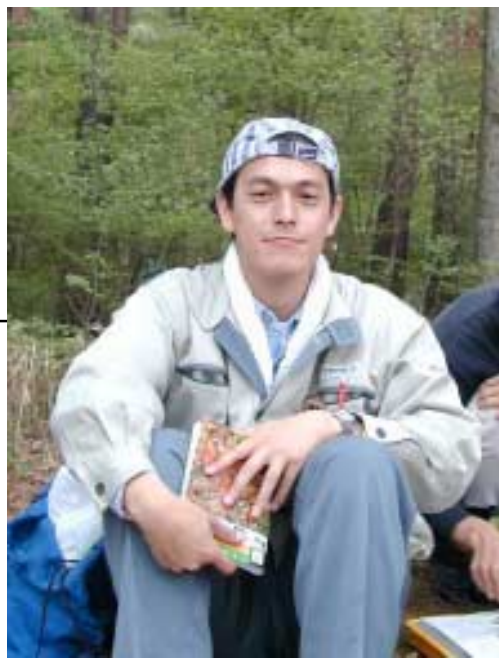
リレー通信

只今鋭意充電中!

神田 道生

森林塾通信：平成12年度第1号の便りと共に、リレー通信原稿の依頼が添えられました。せんえつながら新入生の先鋒を勤めさせていただきます。

まずは自己紹介から、昭和42年10月13日生まれ32歳独身で、千葉県柏市出身です。柏市は千葉県北西部に位置し、サッカーリーグチーム「柏レイソル(日立)」が全国的に有名だと思えます。家族構成は三人兄弟の三男で、現在は両親と父方の祖母と4人で暮らしています。



性格は、明朗快活(のつもり)、声も態度もでかいですが、結構小心者の典型的なO型です。趣味は、読書、パソコン、散歩、カラオケといったところです。喫煙はしませんが、酒については「体格相応に」とこたえるようにしています。子供の頃は大工にあこがれていて、模型工作など細かいことが好きでした。

現在無職ですが、建築および環境関連の職に就いて5年前に一級建築士を取得しています。昨年10月から錦糸町にある、いわゆる職業訓練校「アビリティイガーデン」(http://www.abi-garden.endo.go.jp/)の経営企画科というところで、経営全般を9月まで習得中です。私がKOA森林塾を知ったのは、つい最近のことでした。今年(平成12年)の2月11日にNHKで放送された番組

組「森のドクターと仲間たち」で、島崎洋路先生のことを知ったのがきっかけです。その日は地球環境の問題を取り上げた特集番組が半日以上に渡って組まれていたので、興味半分でそれほど気に留めずになんとなく見ていたもので、「森のドクター」、「森林塾」というキーワードが印象に残りました。

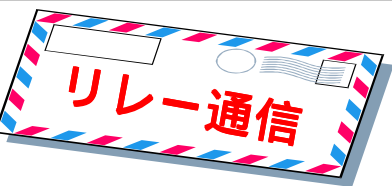
しかし、これをきっかけに1週間ほどの間に書店やインターネットで環境関連の書籍やホームページ(以下HP)を調べているうちに、先日のキーワードを思い出し、島崎先生やKOA森林塾に関連したHP(http://www.amy.hi.no.ne.jp/jet/taou/sintju.htm)から早川さんのE-mailアドレス(sayakawa@konet.co.jp)を見つけて、だめもとで連絡を取ってみました。週末をまたいで早速返信があり、「今年度の予定表は3月中旬くらいになります」とのことでした。3日ほどして、昨年度の案内と一緒に8回分の森林塾通信を送付して頂き、たいへん参考になりました。それと平行して、昨年末に執筆された本「山造り承ります」をHPで検索して出版元などを探しました。しかしながら書店の店頭にはなく、早速取り寄せの手続きをしてみたら1週間程度待って、手

に入れました。ところが不思議なもの、見つけるまではあんなに必死だったのに、いざ手に入れてしまうと安心してしまふのか、読み終えたのは1ヶ月後くらいでした。これらを考えてみると、タイミングというのがとても重要なのではないかとあらためて感じました(タイミングよく手元に来た情報はすぐに処理(読破)されるが、機会がずれると処理に手間取る可能性がある)。

そうこうしているうちに、今年度の予定表と申込書が届き、早速FAXで、参加の意思表示をしました。数日後、早川さん宛てに確認のメールを入れたところ、受講可能との返事が返ってきたのでほっとしました。というのも、実はその返事を受ける前に、土地鑑がないので下見を兼ねて伊那に行き、集合場所である小屋(鳥崎山林研修所)の位置および温泉などの確認をしてきたばかりだったので(本人は絶対に行けるものと信じて・・・しかし、先日話によると、どうやら申し込みが殺到して大変だったようです)。

れば出るほど学生時代にもっと勉強しておけばと嘆くこともありました。そこに気付いたことを「よし」とした上で過去への固執ではなく、「今」、「これから」、「したいこと」、「できること」を行動しながら考えて行きたい。そんな中で最近思うことは、地位や肩書きも時には必要だが、最終的には一対一の関係、個人の能力や周囲のヒトや自然(正確にはヒトも自然の一部ではないはずですが)との関わりが重要だということ

「建てる混んだ都心、大嫌い!」という訳で、敢えて、都心を離れた二宮という町に住み、毎日片道1時間半・往復で3時間掛けて、会社まで通った。朝7時に家を出て帰ってくるのはいつも9時過ぎだった。でも、こんな人はたくさんいた。何の疑問も感じない毎日だった。ある夜、疲れ果てて乗った電車から、ぼーっと外を見てみると、隣の線路を同じ方向に向った満員電車が、同じように疲れ果てた人々をギョウギョウ詰めに家路へ向って走っていた。翌朝、これまた疲れを背負った身体を押し込み、電車に乗って外を見れば、鏡で写したように同じく、ドアの窓ガラスに顔をつぶされたままの人達を山盛りにした電



斧が針、丸太が楊枝になるまで!

山口亜矢子



「ターニングポイント」前回のリレー通信の芳賀さんと同じように、まさしく私もそんな感じなのである。昨年、14年勤めた会社を辞め、神奈川県から長野へイターンして来た。いま、何が私をそうさせたかを考えると、理由は一つではなく、すべての事柄がある方向へ向わせる求心力のよいうなものを持っていた気がする。反力となったのは、「人込みが嫌いだ。電子業界で働くなんてイヤだ」であり、引力となつたのは、「森の中で暮らしたい。建築業界で働きたい」だった。



車が隣りを並んで走っていた。この時かも知れない。毎日3時間も一体何に時間を費やしているんだろう!と思いはじめたのは。

「使い捨て」勤めていた会社は工具を作る会社だった。営業である私が相手にしていたのは電子関連の業界だった。この業界は、汗水たらして開発した製品も技術も、自ら「古いもの」として公言することが、次のステップへの原動力となる。消費者へも、買い換えへの衝動を煽りつつける。この激しい変化の流れのなかに身を置き、仕事をしていると、新しいものを追いかける楽しさの裏で、時に?が止め処も無く押し寄せてくることがあった。舞台裏には常に、次に市場に出す商品が順番を待っていた。開発や販売に尽くし、出来あがった工具たちも、最終的にはその商品とともに、消滅するという悲

しい結果をたどった。その度に自分のしている仕事、すべて徒労のように感じた。「自分の一生を賭けて問い掛けたらいいの!」営業という仕事のなかには、多くの魅力があった。新しい仕事を追いかける、形あるものにしていく。「この工具でなければ出来ない仕事がある」と言ってもらえる物を提供したい。ひいては自分を。営業とはある部分、自分を表現し評価してもらうことだと思ふ。故に、もっと本当の自分の言葉で語りたい!もっと自分らしいものを表現したい!そんな衝動にかられた。ある日同僚と話していた時に「仕事が生き甲斐になっていて、羨ましい」と言われた。「生き甲斐?これが?」私の人生は、これで片付けられてしまった様な気がした。「本当に、やりたいことは?」突き詰めて考えようと、建築という答えが浮

かんた。もちろん建築業界だ。少ならずスクラップ・アンド・ビルドを繰り返している。でも、建築でなら、そうではないものがあることを自分の言葉で語れるような気がした。

「よく平気で一人で泊まれるねー」学生の頃、父の故郷にある山小屋で、よく週末を過ごした。友達と泊まることもあった。人里離れた森の中の山小屋だったので、驚いたり心配したりされたが、多少の恐怖はあるものの、それは人の気配であり、森の所為ではなかった。台風の夜に独りだったことがあったが、不思議と森の中で過ごす嵐の夜は、何かに守られている暖かさがあり、いつも増して心地良い眠りについたことを覚えていて。この感覚が忘れられず、いつしか、森の中で森に守られて暮らすことが夢になった。「どここの森?どんな森?わからないけど!」一番身近だったのが、学生の頃オートバイで走り回り、営業で駆けずり回った、美しい山々を持つ信州だった。

「今しかきつと出来ない!」様々な要因に引かれ、私は「森のくに信州」へ転居した。今は機会を得て松本の技術専門学校(職業訓練校)で日本の大工技術を学んでいる。毎日、午前中は学科の勉強、午

後は道具の手入れから始まる大工の実技実習である。プロの技には程遠いきちなさが、毎日勉強していくにつれ強く感じるのは、本当に木を大切に扱ってきた人たちの歴史だ。いま私が撫でたように、幾千の職人たちが、愛しみの手でもって、この暖かで滑らかな木肌を撫でたことだろう。長く・ずっと・美しく・使われるために作られる、そんな「ものづくり」があることを次の世代に伝えたいと、切に思う。森林塾に入ろうと思ったのも、そんな木工の基本である木を、守り育てるところにも関わっていたという気持ちからである。木を育てるようにならば、次の世代の子供達に、それを伝え育てたい。森の中には、きつと大事なものがあに違いないという確信をもつて!

「斧が針になるまで研いじゃった!」という笑い話があるらしいが、今の私は、カシナがけの毎日が楽しく、材が割箸・丸太が楊枝」になるまで削ってしまいうような、人生の勢い。おーい、誰か!まだなんか削ってもいいもの持ってきてー!?

コラム

皆さん、お気に入りの散歩道をお持ちですか?私は家の近くの民有林の中を歩いていますが、今頃は毎日新しい発

見があります。山椒の花が咲きそう、朴の葉が大きくなつた、唐松の色が濃くなった、驚が姿を見せた...といった風に、「この木は何だろう、検索図鑑を持ってくれば良かったなあ」と思うこともしばしば。身近にあって、日々の変化を目の当たりにできる木だと親しみが持てて、名前も覚えられそうな気がします。都会にも今、計画された林として注目の明治神宮を始め、結構ありまますよ。皆さん、図書館で図鑑を借りて、散歩がてらに検索してみても如何でしょうか?尚、伊那で「樹木分類ハイキング」のできる場所は追って、立ち寄り情報」で紹介します。

立ち寄り情報

「くらぶていあ杜の市」(駒ヶ根市官の台・6月3日10時~18時、4日10時~17時) 森林塾のない週末なので、遠方の方は無理かもしれませんが、恒例のクラフト展です。川沿いの遊歩道を利用したスペースに、たくさんのクラフト(陶芸、木工、染色、草細工等)のブースが並びます。その中で皆さんにお勧めなのが、昔ながらのやり方で木挽きの実演。体験もできますので、腰に付けた鋸との違いを味わうのも一興かと。駐車場が混むと思いますので覚悟して。ついでに「こまく

さの湯」(五百円)に入るのも良い。雨天決行。詳細はイントラ藤原まで。(OLIVE三輪)

おわりに

森林塾通信の版下作りは今まで、スタッフの後藤さんにお願ひしていたのですが、今回からはKOA坪木が作ることにしました。ホームページに載せたり、あるいはメールでの配信を検討するとそういう結論になりました。後藤さん約一年間ありがとうございました。ございました。より一層良いものを作って行くつもりです。

次回に森林塾名簿をお配りできる予定です。参加していただく仲間の親睦を深めるためのものですので、取り扱いは十分ご注意ください。また、希望者にはメールにて塾生スナップを配信致します。坪木まで連絡下さい。こちらも他への流用等されませんようくれぐれもお願ひいたします。



投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)